

市民学コース 富士見の歴史 6000年の富士見の歴史を展望する

## 第3回 中世豪族、難波田氏活躍す！

平成28年6月25日(土) 10時～12時 鶴瀬公民館 第3集会室

講師 難波田城資料館 館長 早坂廣人氏



第3回のテーマは「中世豪族・難波田氏 活躍す」として難波田城資料館早坂館長の「武士の成立と難波田氏」でした。



①平安後期に入り「律令制度」「荘園制度」などでの貴族支配に陰りが見え始めた。平将門の乱、源平争乱(保元の乱、平治の乱)又関東においても繰返し争乱が起きました。

②「在地領主」が広がる中で、その土地を守るため「武士」たたかう集団が生まれ、近隣の武士団と連合していきました。一武蔵七党・・・

と言われていました。(武士集団は農民を武装化し、戦いの集団として従属させていく)。



③難波田氏は集団の祖（村山党の「金子氏一族の難波田善銀<sup>なんばた ぜんぎん</sup>）は、遠くは「承久の乱」や、繰り返される争乱の中での功績で難波田の領地を授与され、「川越の夜戦」で敗死する迄、



治めていました。館は荒川の沖積地<sup>ちゅうせきち</sup>の自然、地形を利用してつくられ、扇谷上杉氏<sup>おうぎやつうえすぎし</sup>の江戸と河越間を繋ぐ役割を果たしていました。

詳しくは難波田城資料館発行「難波田城のすべて」を参照。

④難波田氏の後には城主となった上田周防守左近は、東松山の松山城の城主で、市内、性蓮寺<sup>しょうれんじ</sup>に宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>、五重塔があります。

また、城内「十玉院跡にあった「一切経<sup>だいそうきょう</sup>（大蔵経）」の教本は、川越の本応寺の経



堂にあります。なお、「難波田城公園」は昭和3年に県指定史跡、昭和36年に県指定旧跡に指定されました。注) 一切経：お経を読書用に一同に集めたもの。